

山陰地方の縄文時代

—松江地域を中心に—

山田 康弘
(国立歴史民俗博物館)

1) 縄文時代とはどのような時代か？

- 日本列島が大陸から切り離され、今日とほぼ同じ自然環境となった時代。
- 弓矢、磨製石斧などの磨製石器が使用されはじめた時代。
- 縄文土器を使用した時代。
- 生活の基盤は狩猟・採集・漁撈を中心としていた。
- 定住生活を始めた時代。
- 土偶や石棒といった呪術具を用いて災いを防いだり、自然からの豊かな収穫を祈った時代。

(山川出版社『詳細 日本史B』より)

2) 縄文時代はいつからいつまでか？

- 時代区分の問題→土器や生業などの文化的要素によるもの。
歴史観と対応する。
- 縄文時代の範囲→基本的には土器の出現から、水田灌漑稲作の出現まで。
- 実際には、縄文時代らしい生活形態・道具立てが揃うのはかなり後になってから→縄文時代草創期の問題。

3) 縄文時代の生業

- 気候の温暖化→動物・植物相の変化(これも土器の出現とはズレがある)。
- 新たな食料資源の開発が必要とされた。
- 中小型動物や植物、水産資源に食料資源の範囲を広げる。
- その結果、ハード(道具)・ソフト(使い方、やり方)ともに様々な「技術」が開発されていく。

①狩猟

- 弓矢の出現(石鏃の登場)→素早く移動する小動物も捕獲可能に。
- 猟犬としてのイヌの利用が始まる。→狩猟効率の上昇。
- 落とし穴の増加。→計画的な「待ちの戦略」が可能。定住生活と密接な関係あり。

②採集

- 植物食の比率が高くなる。→敲磨石・石皿・打製石斧の増加。
- 木の実(ドングリ類・クリ・トチなど)の貯蔵穴、加工場の発見が増える。→アク抜き技術が発達。→土器の利用と密接な関係。

③漁撈

- 水産資源の利用が発達する。→貝塚が数多く残される。
- マグロ・フグ・ヒラメ・タイなど多様な魚類の利用→釣漁法・網漁法の発達。
- サケ・マスの利用(主に東日本)→一時期に多量の捕獲が可能。燻製や干物などの保存食に加工された。
- 塩の利用が始まる。→塩漬け保存用としての利用価値大。

④農耕？

- 飯南町の板屋Ⅲ遺跡などで稲粃の痕のついた土器が発見されている。
- 鍬として使用できる打製石斧や収穫具として使用できる刃器が存在する。
- コメなどの穀物の栽培が行なわれていた可能性がある。
- ただし、生業全体に占める割合は小さいものであったらしい。

⑤多角的な生業

- 現代に続く多くの食料資源の開発がこの段階で達成される。
- 四季の存在→季節によりバイオマスの量が大きく変動する。
→季節的な計画性がないと生きてゆけない。
- 食料獲得のための組織化→テリトリーの占有化→要人口数多
- 定住化の促進→定住化のデメリットを解決する必要。
- ムラの掟などの様々な社会調節システムの発達。
→抜歯などの風習の発達。
- 大地の恵みの豊饒、再生産を願う祭祀の登場。
→石棒・土偶などの呪術具の発達。
- 多様な形で複雑な精神文化が発達する。
→各地における環状列石・大型の配石遺構の出現。

4) 定住生活

①定住生活とはなにか？

- 定住生活→農耕や牧畜とセットで語られることが多い。
→おおよそ2～1万年前から開始されたい。
- 700万年前にまでさかのぼる人類史的に見た場合、非常に新しいライフスタイルである。
- ヒトの歴史のほとんどは移動生活。
- 大型霊長類は移動生活を行なう。
- 多くの哺乳類は移動生活を行なう。→現在のヒトの定住生活とは、動物全体から見た場合、きわめて特殊な状態である。→でも現代人のほとんどは定住生活。
- なぜ定住をするようになったのだろう？→学問上の大問題！！
- 簡単には割り切れない定住と移動。

②移動生活のメリット

- 安全性・快適性の簡易な維持が可能。
- 自律的であり、かつ経済的である。
- 社会的なメリットが大きい。
- 生理的な適応性。
- 観念的な適応性。

5) 山陰地方の縄文集落と社会

①集落のようす

- 小規模集落→住居が2～3棟程度。人口数は10人を大きく超えない。
- 住居構造があまり堅牢ではない。→何十年という長期にわたる定住生活を志向していない？
- その一方で貯蔵穴や墓域の形成がある。→長期的な計画性をもった空間利用。回帰的な土地利用。
- 移動生活のメリットを最大限に享受可能？

②社会のようす

- 少ない呪術具→必要としない社会。
- 少人口・広い移動範囲をもつが故に食糧問題やゴミ問題・対人関係などの問題を容易に解消できていた。
- 社会的な複雑化の進行を少人口・移動生活で回避していた。

③縄文時代から学ぶこと

- 適切な人口数を考えましょう。
→人口構造を変えずに規模を縮小することも。
- 一カ所にとどまり続けることが本当に最良の選択なのか考えてみましょう。
→人生思い切った転換も必要です。
- ものごとを必要以上に複雑にはしないようにしましょう。
→IT機器って日常生活に本当に必要ですか？

参考文献

- 山田康弘 2002「中国地方の縄文集落」『島根考古学会誌』第19集。
- 丹羽佑一 2009「中国・四国地方の縄文集落」『集落の変遷と地域性』雄山閣。
- 山田康弘 2010「中国・四国地方の縄文集落の葬墓制」『葬墓制』雄山閣。
- 柳浦俊一「中国・四国地方の縄文集落の生活と生業」『生活・生業』雄山閣。